

基本目標1 つながる

現行計画
取り組みの方向性
◆多様性の理解・啓発
◆居場所づくり
◆互いがつながる・受け止め合う関係づくり
【主な取り組み】 ♥多様性への理解の促進 ・イベントや講座等での理解促進・啓発活動 ・ミニデイ・サロンの普及・啓発

→
主な取り組みに具体性を追加

→

→
多様性について考える機会を通じて、孤立や排除のない地域づくりは、多様性の理解・啓発にまとめる

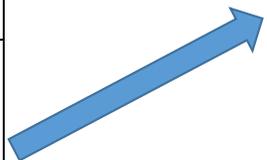
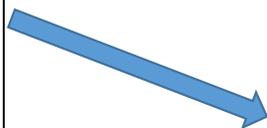
次期の計画	
取り組みの方向性	委員のご意見・考え方
◆多様性の理解・啓発	<ul style="list-style-type: none"> ・「多様な個性・属性の方に対する具体的な配慮とはなにか」 →多様な個性を理解し、個人を尊重して行われる柔軟な対応 →取り組み例の「共有」 ・「当事者も交えた場づくり」、「学んだことを活かせる場まで準備」、「実際に受入れ経験を積む」 →当事者との交流も含めた学ぶ場・機会づくり【主な取り組みに反映】
◆つながる「入口」の強化	<ul style="list-style-type: none"> ・「多様な人といかにつながるか」 →つながり方・つながるための支援 →多様な居場所づくり、地域の支援ネットワークからのつなぎ【主な取り組みに反映】 ・「住民同士のつながりでは、地域の祭り、イベントの交流が大事」 →福祉の分野にとられないつながり ・「顔の見える活動を通して連携強化」、「各種団体、地元企業等住民を巻き込んだ働きかけ」、「社会福祉法人等への積極的なアプローチ」 →コーディネート、マッチング調整 ・「アウトリーチの強化のための（支援を必要とする人とつながるための）デジタル活用」
◆つながり続ける工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・「つながることは一定の成果を得た。つながり続けるという意識を取りれてはどうか」 ・「楽しみながら活動し次世代につなげていく」、「地域の住民主体に多くの裁量を認めていく」 →活動者自身が楽しみ、継続できるための支援 ・「世代間・地域間を超えた度量を織り込むことが必要」、「サークル同士のつながりが無い」 →サロン間の交流促進と先進事例の共有 ・「目的の妥当性」「目的に対する評価の見える化」「目的に立ち返る習慣」 →フィードバック（安心・安全、あたりまえ、気軽さ）
【主な取り組み】 ♥交流による相互理解の促進 ♥多様な形態の居場所づくり	

基本目標2 活動する

現行計画
取り組みの方向性
◆地域の活動にかかる情報発信
◆できることを活かせる機会づくり
◆担い手の育成・支援
【主な取り組み】 ♥地域参加の仕組み・きっかけづくり ・ボランティア活動の活性化 ・ボランティアへの支援の充実 ・地区ボランティアセンター活動の支援



活動の後押しになるような情報発信ができていない



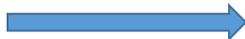
次期の計画	
取り組みの方向性	委員のご意見・考え方
◆地域活動の活性化につながる情報発信	<ul style="list-style-type: none"> ・若い人たちに地域参加の情報発信」、「情報を受け取る側の整備」 →ツールの活用、普及・促進 ・「現場から発信」、「具体的に」 →よりイメージしやすい発信 ・「意欲を引き出す」「しあわせづくりに自分ができること」 →モチベーションを刺激するPR
◆多様な参加の機会づくりから地域福祉の担い手を増やす	<ul style="list-style-type: none"> ・「福祉以外の団体とのつながり」、「学校や商店・企業の協力を促進」 →社会資源の発掘、多様な（福祉の分野にとらわれない）主体の参加、マッチング ・「意欲を引き出す」、「もっている強み」、「力を社会が認める」 →できることから参加 ・「交流の場を設ける」「一緒に楽しめる活動として」「親子で楽しめるイベントから関心を」 →参加の間口を広げ、楽しみからできることを発見できる機会づくり ・ゆるやかな地域参加（きっかけ）から地域福祉の担い手としての参加を促進 ・担い手の育成・支援（市や市社協などによる研修や活動支援）
【主な取り組み】 ♥参加・活動したくなる情報を届ける工夫 ♥多様な主体ができることを活かせる機会の拡充 ・担い手の育成・支援	

基本目標3 支え合う

現行計画
取り組みの方向性
◆地域の課題に地域で取り組むことができる体制づくり
◆連携強化
◆相談支援体制の充実
◆権利擁護の促進
【主な取り組み】 ♥相談支援体制・連携の充実 ♥成年後見制度の普及・利用促進 ・専門職の対応力向上（連携した対応、地域者ノウハウの共有） ・総合相談体制の更なる充実



土台はできた。仲間を増やしてより強靱なものとしていく



支援体制はあるが、既存の制度・サービスよりの考え方になりがち



次期の計画	
取り組みの方向性	委員のご意見・考え方
◆地域の課題に地域で取り組むことができる体制の 拡充・強化	<ul style="list-style-type: none"> ・参加促進（分野を問わない）、社会資源の開発 ←働きかけ ・「自分の立ち位置（役割）を理解」→ 相互理解 ←「調整」、「コーディネート」 ・継続性 ←振り返り、フィードバック、「共有」 ・行政、専門の関係機関との連携による支援
◆ 本人・世帯を中心とした 相談支援体制の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・協働レベルの連携支援（主体性、我がごとの関り）←調整 ・既存のサービス・制度中心から本人・世帯中心の考え方 ・地域、関係機関、行政の一体的な支援
◆ 自分らしい地域生活を支援	<ul style="list-style-type: none"> ・「成年後見制度を活用が増えることがゴールではなく、この制度により救われる方、幸せになる方が一人でも多くなるように運用側が線引きする必要がある」、「支援者、地域住民も含めた取り組み、仕組みづくり」 →意思決定支援 本人を中心としたネットワークの構築、チーム支援 ・権利擁護の広報、周知（成年後見制度の正しい理解促進を含む） ・担い手の育成（市民後見人の養成 →「成功例の共有」、活動支援） ・成年後見制度の改正を見据えた支援の在り方の検討（助成事業等） ・更生支援に向けた地域づくり
【主な取り組み】 ♥ ネットワークの拡充・強化 ♥ 意思決定支援の強化 ♥ 更生支援に向けた地域づくり	